

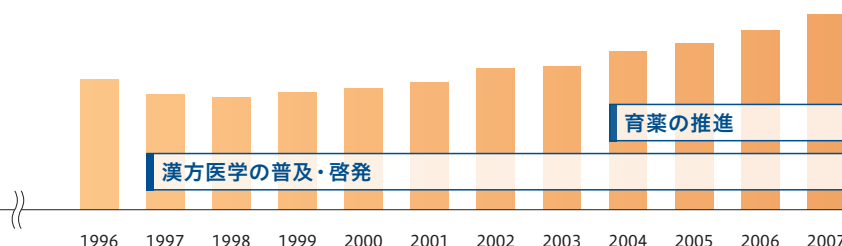
価値創造基盤の構築

ツムラグループは、漢方医学と西洋医学の融合を目指し、医療用漢方製剤の普及と科学的エビデンスの構築に力を注いできました。その取り組みは、漢方の伝統を尊重しつつ、現代医療に適合させるための革新を積み重ねてきた歴史でもあります。こうした挑戦を支えてきたのが、長年にわたり築き上げた漢方バリューチェーンであり、当社グループの価値創造と組織資本の源泉となっています。

- 1893 津村順天堂創業、婦人良薬「中将湯」を製造販売
- 1936 株式会社津村順天堂設立
- 1976 ツムラ医療用漢方製剤33処方が薬価基準収載（漢方の復権）
- 1982 東京証券取引所第1部に株式上場昇格
- 1987 薬価基準に追加収載され、129処方に
- 1988 社名を株式会社ツムラに変更

創業

1893



研究開発

漢方研究の深化と新たな価値の創出

ツムラの研究開発は、1924年の研究所・薬草園の開設に始まり、生薬の品質・栽培研究や漢方薬の薬理・臨床研究を通じて基礎を築きました。2004年以降は育薬研究^{*1}を本格化し、RCT、メタアナリシス、安全性・薬物動態評価などを組み合わせたエビデンスパッケージを体系的に整備し、診療ガイドライン収載を通じて漢方治療の標準化を推進してきました。

近年は、メタボロミクスや遺伝子解析等の先端技術を統合した「KAMPOmics[®]」^{*2}により、多成分・複雑系の作用機序解明を進めることで漢方治療の標準化を拡大するとともに、米国での「TU-100」^{*3}の上市に向けた臨床試験を推進しています。また、レスポnder研究やAI漢方診断支援システムの開発による漢方治療の個別化と、未病状態を可視化するバイオマーカーの探索を通じた未病の科学化への展開を目指しています。

栽培・調達

原料生薬の品質確保と安定調達

天然物由来の漢方製剤の製造においては、その品質と有効性を支える原料生薬の安定的な確保が不可欠です。一方、生薬は天然物であるため、天候、収穫時期や加工方法などによって生じる成分のばらつきをコントロールすることが重要です。ツムラでは、「漢方の品質は畑から」という信念のもと、40年以上かけて中国各地の生産団体との直接契約体制を構築し、栽培・加工方法の技術指導を通じて、当社基準を満たす生薬を調達する仕組みを構築してきました。また、野生生薬の栽培化の推進や、日本国内やその他の国での栽培拡大にも取り組むことで、生薬の安定調達を実現しています。

2010年には、これらの取り組みを体系化したツムラ生薬GACPの運用を開始しました。生産標準や工程管理、トレーサビリティ、監査を組み合わせた一体管理により、品質のばらつきを抑制するとともに、安全・安心な生薬の安定確保を実現しています。

主な沿革

- 1924 津村研究所、津村薬草園開設
- 2004 研究開発方針を変更し、漢方・生薬に特化漢方製剤のエビデンス構築による育薬の推進
- 2005 大建中湯がFDAに治験薬IND取得、臨床試験開始(TU-100)
- 2016 当社独自の研究パッケージ(KAMPOmics[®])商標登録
- 2024 TU-100後期第Ⅱ相臨床試験が完了

主な沿革

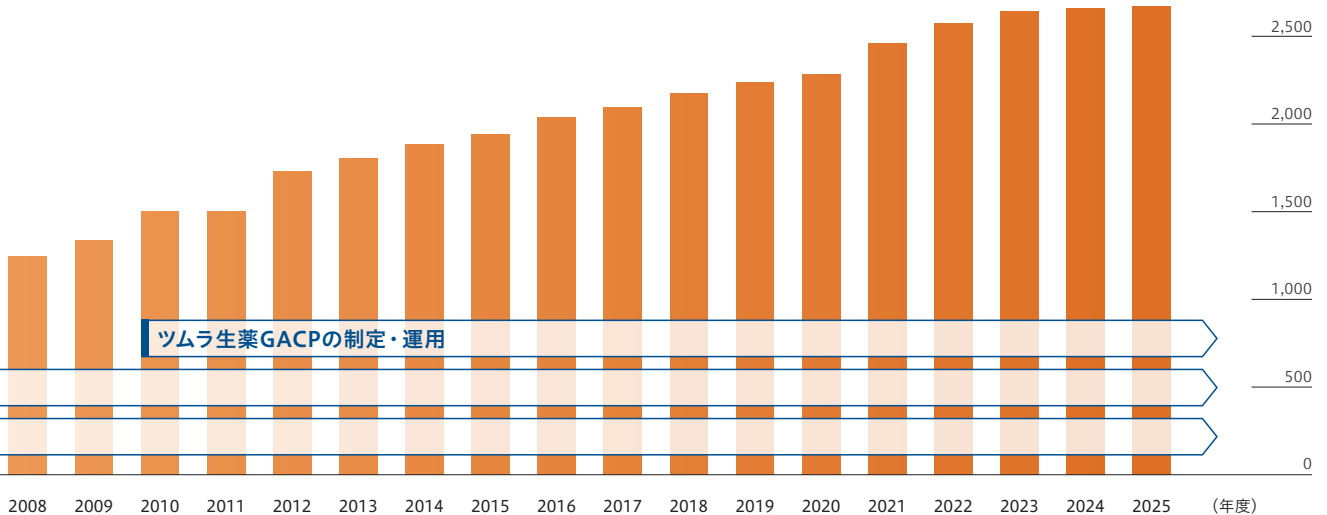
- 1973 中国政府指定の友好商社を經由して生薬購入開始
- 1988 「合併会社」からの直接購入体制整備
- 1991 中国の原料生薬調達拠点として深圳津村薬業を設立
- 2009 国内の原料生薬調達拠点として夕張ツムラを設立
- 2010 東南アジアの原料生薬調達拠点としてLAO TSUMURAを設立
- 2019 中国事業の拡大・生薬安定供給体制の強化を目的として天津盛実百草中薬科技(現：平安津村薬業)の持分取得

*1 医療用漢方製剤が特異的に効果を発揮する疾患に的を絞って基礎・臨床データを集積する研究

*2 先端技術分野(メタボロミクス・遺伝子・腸内細菌・システムバイオロジーなど)の研究を組み合わせ、日本の伝統医学である漢方医学と、多成分で複雑な漢方薬を統合的に理解するために策定した、当社独自の研究体系

*3 国内向けの「ツムラ大建中湯」と同じ構成生薬から製造される開発治験薬

医療用漢方製剤（129処方）販売数量推移（万箱）
※標準包装1箱は9週間分入
3,000



製造 安定供給を支える製造基盤の進化

ツムラグループは、高品質な製品の安定供給を実現するため、製造基盤の確立を進めてきました。

医療用漢方製剤の生産を開始した最初の工場である静岡工場の設立後、需要増加に対応して茨城工場を新設し、さらに、中国の上海津村・天津津村における漢方エキス粉末（中間製品）の生産を含め、4拠点による供給体制を構築してきました。

品質の均質化への取り組みとして、生薬および中間体について、ロットごとの品質データと長年培ったノウハウを組み合わせ、使用する生薬ごとに、構成割合を指定して複数ロットで調合することで、最終製品の品質をコントロールしています。

さらに、知見とデータに基づき最適化された製造設備および工程設計のもと、抽出・濃縮・乾燥・造粒・包装といった各工程をコンピュータ制御するとともに、ロボット技術による自動化を実現して、生産性の向上を実現しています。

主な沿革

- 1964 静岡工場新設
- 1983 茨城工場新設・研究所を同敷地内に移転
- 2001 中国の漢方エキス粉末（中間製品）製造拠点として上海津村製薬を設立
- 2018 中国の漢方エキス粉末（中間製品）製造拠点として天津津村製薬を設立
- 2020 茨城工場第3SD棟の全生産工程においてロボット技術を導入

販売・啓発・普及 漢方医学の普及による治療貢献の実現

ツムラは創業以来、漢方医学の啓発・普及に継続的に取り組んでいます。2004年には日本全国の大学医学部・医科大学で漢方教育が必修化され、漢方医学の普及を支える体制の整備が進みました。2016年には、超高齢社会における社会課題から漢方に求められる期待と役割の高まりを踏まえ、現状において治療満足度が低い疾患・症状に対する医療ニーズに対応するため、高齢者・がん（支持療法）・女性関連領域を重点3領域として設定しました。2019年からは、従来のMRによる情報提供活動に加え、e-プロモーション^{*4}を開始し、情報提供の量と質の強化を図りました。その結果、2024年には推計ディテール数^{*5}において製薬業界第1位を獲得、2025年もその実績を維持^{*6}しています。これらの結果、2025年には10処方以上の漢方製剤を処方する医師の割合は臨床医師全体の50%以上を占める割合まで増加し、過去30年間で医療用漢方製剤129処方の販売数量は約3.5倍に増加しています。

主な沿革

- 2004 日本全国の大学医学部・医科大学で漢方医学教育が実施される
- 2016 高齢者、がん（支持療法）、女性を重点3領域として設定
- 2019 メガWebセミナーなどe-プロモーション開始
- 2024 推計ディテール数（医師の情報認知件数）が製薬業界で1位になる

*4 MRを介さないオンライン上の情報提供活動

*5 医師の情報認知件数

*6 2024年度・2025年度実績/インテージヘルスケア調査「Impact Track」